

般若心経

平成22年12月第2週放送

本日は、どなたでも一度は耳にしたことのあるお経、『般若心経』についてお話いたします。

般若心経は、『摩訶般若波羅蜜多心経』といい、お釈迦さまが亡くなって数百年後、大乘仏教の膨大な般若経典のひとつとして制作されました。数あるお経の中でも短い部類のお経で、二百六十二文字よりなっています。

しかし、膨大な般若経典の重要な部分をまとめたお経として、インドや中国などを経て日本に伝えられ大切にされてきました。

現在、日本で読まれている般若心経は、西遊記で有名な玄奘三蔵、三蔵法師によって、インドの言葉から漢字に翻訳されたものです。

日本では、ほとんどの宗派・寺院で読まれているたいへんポピュラーなお経です。ほとんどの宗派で読まれているという事は、とても重要なお経であるということです。なぜ重要なのでしょうか。

般若心経の「般若」とは、智慧という意味です。智慧とはお釈迦さまの悟り、つまり縁起の法則によって物事をよく観察するということです。

縁起の法則とは、「この世の中のすべての存在は、縁によって生まれ、縁によって移り変わる。縁によって存在しているので、独立して存在することはなく、つまりすべての存在は縁によってつながっている」ということです。

この縁起の法則を知り、修行によって体得することにより、苦しみを除くことができるとお釈迦さまは説かれました。

智慧の眼によって、世の中を観察し、また自分自身をよく観察することができた時、はじめて、般若心経の一節、

「能除一切苦」のうじょー いっさいくー、「一切の苦悩を除くことができる」のです。

お釈迦さまは、「生・老・病・死」という、人が避けられない苦しみを取り除きたいと誰よりも強く願い、修行をされ、悟りを開かれました。

お釈迦さまの悟りが、時を経て、般若心経というお経になったのです。

般若心経は、お釈迦さまの悟りの真髄を説いた大切なお経です。短いお経ですので、ぜひ、お釈迦さまの悟りに触れて頂きたいと思います。

ご家庭で、お仏壇の前で声に出してお唱えし、また、心静かに写経をしてみたいかがでしょうか。